

特集

美しくたくましく...

3年連続日本一！市立小栗原小学校合奏クラブ

街角特集 大穴小が初優勝 第一回縄跳び大会

まちなかの文化財 勝間田の池跡

100回練習が終わるとその結果を窓に張りつけた紙に記録する



練習が終わった。弦についた松ヤニを落とす

午前6時50分。準備室の楽器たちも目を覚まし始める



今日もこの朝練習から一日が始まる

美しくたくましく……

3年連続日本一——市立小栗原小学校合奏クラブ



全国学校合奏コンクール3年連続日本一。そしてTBSこども音楽コンクール東日本大会7度目の最優秀賞となり、その報告とお礼を兼ねた定期演奏会が、今回で15回を迎えたこの演奏会、寒い日ではあったが体育館は詰めかけた人々の熱気で暖かかった。

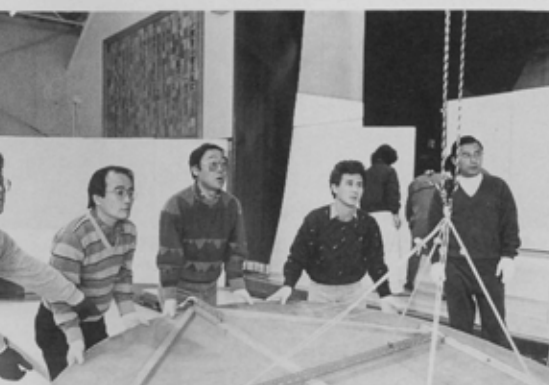
昭和58年に同校を主体とする「船橋市少年少女オーケストラ」がオーストラリア青少年音楽祭に参加。その際大変お世話になったジョン・フックさん（中央）とレイ・ヒルさん（左）が大橋和夫市長（右）により紹介された。両氏は偶然来日中のところ、この式典を知りかけつけてくれたのだ。



▲関東甲信越地方代表として参加した全国学校合奏コンクールでは、ドボルザークの交響曲第9番「新世界より」第4楽章を演奏し、3年連続最優秀賞を受賞。これを記念して、この賞の授与式と記念演奏会が、1月26日市民文化ホールで行われた。3年連続日本一を達成した記念に深紅の優勝旗は同校に永久保存されることになったが、その格納ケースが大橋和夫市長より同校にプレゼントされた。写真は日本音楽協会会長から優勝旗を授与される小岩豊史君。



鳥飼校長から、合奏クラブをかねて支えてくれた染谷久雄さんをはじめ5人の方々に感謝状が贈られた。



明日は定期演奏会。学校の体育館は音響が悪いので、反響板を天井に取り付ける。お父さんたちの出番だ。



年1回行われる定期演奏会は、正に手作り。市民文化ホールで開催してはどうかという声もあるが、身近な体育館で行うことの素晴らしさがここにはある。



部員の家族は音楽に理解のある人が多い。しかし「百回練習」を家でやられると、うるさくて困ることもあるという。



定期演奏会ではオーケストラの伴奏により「ふるさと」の大合唱が行われた。



3年間お世話になったお礼に、6年生が先生に花束を贈呈。様々な思い出がよみがえる。



遠くの親戚や音楽ファンまで駆けつけるといふ定期演奏会。当日は約700人が集まった。



先生のインタビューに緊張がみ

指揮の佐藤先生のタクトが静かに止まった。一瞬の静寂があった次の瞬間、割れんばかりの拍手と歓声がどっと会場を包みこんだ。ほとんどのメンバーは放心状態のようだった。ただじっと宙を見つめているようだった。全力を出しきった。6年生にとっては最後の演奏会だった。

ドボルザーク作曲「新世界より」第4楽章「私たちに」とも呼ばれる。高き音を出すところが多くて、小さい私の手ではとても大変だったから……。でも今日はかならず上手に弾けた。管（音楽器）のみなさん、おつかひよう。練習はとっても苦しかったけれど今は本当に気持ちがいいです。コンサートマスターの渡辺晶子さん（6年生）が静かに最後の演奏をふりかえる。花束を受ける佐藤先生、木下先生の目頭にも光るものが見える。

小栗原小学校合奏クラブ第15回定期演奏会は、去る2月21日（日）その体育館に満員のお客さんが詰めかけて盛大に開催された。今年はこの合奏クラブが、全国学校合奏コンクール小学生の部で見事3年連続日本一を獲得。内閣総理大臣賞、文部大臣奨励賞、そしてTBSこども音楽コンクール東日本大会最優秀賞を受賞し、深紅の優勝旗が同校に永久保存されることとなり、その記念の演奏会である。

定期演奏会は毎年この体育館で行われている。父母の会やOB、そして地域の様々な人々の協力による文字どおり手作りの音楽会である。今ではすっかり地元の人々に親しまれるようになった。

合奏クラブのメンバーは4年生から6年生の81人。入部してくるほとんどの子供たちは楽器にさわったこともないという。練習は毎朝7時から8時までの「朝練」と放課後の約1時間半。佐藤日呂志先生、そして木下昇治先生の二人がそれぞれ指導にあたる。「今日の演奏は良かったよ。一回一回それぞれが新鮮でとてもやりがいがあります。6年生はこの舞台が最後になりますから、一生懸命練習したことを思い出して出てください。涙の演奏になってしまえば、僕らもうつらいところですよ。皆さんには子供たちが、ただ一生懸命やっている姿を見ていただければそれでよいと思っています。『淡々と語る佐藤先生の表情には、音楽に対するひたむきな姿勢と心、そして何より子供たちを思いやる細やかな愛情がひしひしと感じられた。』

小栗原小学校合奏クラブは海外でもその活躍が評価されている。国際化時代が加速度的に進む今、大橋和夫市長は積極的に海外交流事業を進めている。昭和58年8月にはこの小栗原小学校合奏クラブが主体となった「船橋市少年少女オーケストラ」がオーストラリア青少年音楽祭に参加し、見事な成果をあげ「チビッコ文化使節」の役目を立派に果たしている。

そしてこの3月、船橋市はコンビニエーターと童話のとりもつ縁で、デンマークのオーデンセ市と交流を続けているが、このオーデンセ市の千年祭記念式典に招待を受け、同校合奏クラブの弦楽四重奏が披露されることになった。コンビニエーターと童話、そして今また音楽を通じて両国間に新しい歴史の一頁が印されようとしている。



プロのオーケストラもビックリの豆演奏家達



みんなで奏でよう
心のハーモニー



お6
も年
い生
での

小岩瀬史郎長（トランペット） 夏も冬も本一を目標としてがんばって練習してきました。3年連続日本一となり深紅の優勝旗を学校に永久保存できたことが一番うれし
小川朋幸副部長（ホルン） 合奏を続けてこ
れたのも先生や先輩のおかげです。今の僕に
て合奏が一生の宝物であり、思い出です。
渡辺薫子副部長（バイオリン） 今年ば小学
校生活の中で一番心に残る思い出の年です。
じかめ、合奏クラブは一生心に残るすばら
しい思い出がいっぱいです。
伊与田祥子さん（フルート） 私たちに音楽
の楽しさと奥の深さを教えてくれた先生、い
やだったことも今は楽しい思い出です。みん
なみんな忘れません。
大山祥子さん（フルート） 入ったときは全
然音の出なかった私を一生懸命教えて下さ
った先生や先輩、すばらしい思い出をつく
った大切な皆さん、ありがとうと言いま
す。
佐藤剛君（オーボエ） 練習の前、ふざけて
いた先輩が曲を始めたら急にまじめな顔に
練習がはかどるやめだと思ったときもあ
ったけど、やめないうちでよかったと思いま
す。
佐藤勝彦（クラリネット） 3年連続日本一
になったこと、そして先輩の姿き上げてきた
伝統を守れたことがうれしい。
岩井秀和君（ファゴット） 合奏クラブに入
って一つ大きな事を学びました。それは、み
んなの力が一つになってこそすばらしい演奏
ができるということです。
岩城丰輔君（ファゴット） 初めは牛〜と
キヤ〜とも鳴らなかつた僕。ただ先輩たち
はキヤ〜と教えてくれました。今では先輩
らに教わったことを後輩に伝えて卒業しま
す。
馬田明臣君（ホルン） 初めて練習を見に行
ったとき、皆さんが賑かに迎えてくれてと
てもうれしかったです。全員が力を合せるとい
うのができると、合奏を通してわがしまし
た宇田川智之君（トランペット） づらい厳し
い練習があつたから最優秀賞がもらえたのだ
と思います。これからば合奏で学んだ集中力
や根気を生かしていきたいと思いま
す。
庄司大輔君（トロンボーン） 合奏クラブの
3年間でくったさんの思い出ができました。特
に思い出に残ったのは全国合奏コンクールで
3年連続日本一になったことです。
松沢邦弘君（トロンボーン） 校庭5周、ふ
みながら、背筋、うで立てふせなど運動クラ
ブみたいな練習をしました。日本一になるに
は日本一の練習が必要だとわかりまし
た。坂口知寿子さん（バイオリン） 長いよう
で短かったこの3年間で根気力、集中力など
を学び、たくさんのお思い出ができました。合奏
クラブのことは絶対に忘れません。
西坂奈穂さん（バイオリン） 先生や先輩が
たにとても迷惑をかけました。やめたいと思

ったこと、時々ありました。でも本当に合奏をやめないうちだったと思います。

野口陽子さん（バイオリン） 皆んなで演奏することの練習を楽しく知りなさい。また毎日のつらいつらいつの練習を乗りこえなければ、受賞のときの喜びもなかったと思います。

東谷恵子さん（バイオリン） 初めは手がふるえ指が動きませんでした。今では練習の時に同じように演奏ができるようになりました。これも先生や先輩のおかげです。

関貴弘さん（バイオリン） 初めは続けられるがとて心配だったけど、こうして続けられたのも、先生は友だち、先輩、後輩の皆さんののおかげだと深く感謝しています。

田中久美子さん（バイオリン） 皆んなの心が一つになって演奏することはずばらしいことだと思いました。大すきな合奏クラブのこととは全然ません。

舛麻子さん（バイオリン） 初め先輩のひいている「オベロン」を聞きびっくりしました。でも今は「オベロン」も「新世界」もひけるようになりました。ありがたうございます。

押田淳子さん（ピチア） 合奏クラブでしが学べない「根気」、「努力」、「協力」も身につけてとても良かったです。

近松利明さん（ピチア） 合奏クラブに入り集力、根気力、そして学びながら一生懸命やろ大切さを知り、みんまでなにか一山本志穂さん（ピチア） 6年生の7月に入部一から始めた合奏の練習。皆んなについていけるが不安でこわかったけど、一生懸命やったらおかげでいろいろひけるようになりました。大河原勝彦君（チェロ） 朝早くからの練習、遊びながらと思うながらも、たまたまの練習、こんな厳しい練習にたえられたのは、皆んなと楽しくできたからだと思います。

斎藤宏和君（チエロ） 2年間よくやってこれたなあ自分でも感心する。ふつうの人では経験できない喜びや感嘆を味わえました。飯塚由希子さん（コントラバス） 覚えが早くうまくひけるので、最初はやめたいと思ったけど、皆んなの励みでやってこれました。石山綾子さん（コントラバス） だんだん自分でひけるようになってきたら、勉強の時より楽器をひいての方が楽しくなりました。

柳村朋和君（コントラバス） 「新世界」という曲は低い音がとても重要な曲で、そのパートに自分がいれることを実感し、体験できたことを一生忘れたいと思います。

角野友美さん（コントラバス） 一番印象に残ったのはTBSコンサート。すごく緊張しましたが、演奏が始まると、集中して緊張し満足のできる演奏ができました。

藤林剛史君（コントラバス） 演奏会やコンサートに出て数々の賞をもらったこと。大きな拍手をもらったこと。みんな忘れません。



ケヤキの線が明るく美しい

まちなかの文化財

②勝間田の池跡

(勝間田公園)

(市内西船5丁目)

西船、国道十四号線沿いに「勝間田公園」がある。若いお母さんたちが赤やんをおたがいに抱き合っている。ベンチには、お年寄りが日向ぼっこ。こちらにも二人、三人と固まって話している。今日はお天気が良かった。おはあさん、いつまでも元気だ。下さる。思わぬ声をかけてしまった。この公園、もと「勝間田の池」といって、戦後、水がめつり少なくなつたうえ、上流からの家庭の排水で、池の水が汚れてしまい、池のようになってしまった。もともと勝間田の池は昔から、本郷の池池とも呼ばれていた。そこで地元、市が相談して埋め立てて公園とした。この池は「萬葉集」に出てくる、あの「勝間田の池」だ。という伝承があった。事実とすれば大変由緒のある池を埋め立てたことになる。が、どうやら本郷の勝間田の池は奈良の池と異なり、同名の勝間田の池は全国各地に幾つもあつた。なお、公園の一角に「大橋松平歌碑」が建っている。



選手の向きは正面が横か、1列か2列か。縄の速さはどうか。各チームとも秘策を練っての参加だ。



声援、拍手、縄が床を打つ音…。体育館は熱気に包まれた。



安全を考え、普段より高く跳ばなくてはと思う。持ち時間は20分だが、3回チャレンジするとフラフラになってしまうそう。

問合せ

船橋市役所広報部広報課
船橋市湊町2-10-25 〒273
0474-362013

昭和59年6月に創刊し、写真で船橋の人と街の姿を追いつけたこのPHOTOふなばし、今回で24号を迎えました。この間、船橋市は大橋和夫市長の下「活力ある近代的都市」を目指して歩み続け、そして今新しい第二の発展期を迎えています。このめまぐるしく移り変わるうとしていく我が街・船橋を、市民の皆さまにもっと深く見つめていただくこと、5月号から「PHOTOふなばし」の誌面が16頁となり生まれ変わります。今までの特集、市政の話題コーナーは勿論のこと、町会や自治会・PTAなどの身近な話題や出来事に触れたり、市内で活躍する外国人や、様々な分野で活躍する人などにお話を伺うコーナー、そして市内各地に残る民話や街道めぐりなどいろいろな企画を考えています。編集部では、読者が参加するPHOTOふなばしを目標に、皆さまからの投稿、写真、お電話をお待ちしております。

身近な話題・出来事をお寄せ下さい。

5月号から
PHOTOふなばしの誌面が
生まれ変わります！

特集 角集

大穴小が初優勝



115回を跳んでみごと優勝した大穴小チーム。練習期間は約1か月で週3回、昼休みに。練習中にも115回は跳んだことがなかったそう。

船橋なんでも一番 第一回縄跳び大会



106回を跳んでそのまま優勝かと思われたが、高根小に107回で逆転され、更にそれを再逆転した大穴小。1本の縄がドラマを生んだ。

まっすぐに並んでいるか。跳ぶ前から勝負は始まっている。



当日は40校、約1400人が参加した。



元気な声援をおくる大穴小チームの応援団。

市内の小学校児童千四百人が参加した第一回縄跳び大会が、二月二十一日(日)市立船橋中学校体育館で開かれました。市制五十周年を記念して募集した「船橋なんでも一番」の記録を認定する大会で、市内の小学校40校が出場しました。「船橋なんでも一番」は、コレクシヨン、スポーツ記録など市民が個人やグループで申請し、市が認定するユニークな試みのもの。縄跳び大会の競技は一チーム三〇人編成で、二〇分間の制限時間内に何回も挑戦でき、その跳んだ最高の回数が記録されます。会場の体育館内は、掛け声や縄が床を打つ音、応援する父兄の拍手など熱気にあふれました。成績は、百十五回を跳んだ大穴小が優勝、二位が高根小百七回、三位が金杉小八八回でした。大穴小は認定委員会から認定され「なんでも一番」に登録されます。



記録を伸ばすコツは縄がはねないように回すこと、時間の配分、跳ぶときの足の曲げ方などいろいろありそう。



第22回船橋市生活展が、2月19日から24日まで開催されました。今回の生活展は、「安全なくらしーみつめよう50万の目」をテーマに、サービス化・情報化・国際化の波を受けてより複雑になりつつある消費生活は、市民の皆さんと共に考えてゆこうというものです。会場となった西武百貨店船橋店7階の大催事場では、市内の各消費者団体が「輸入品をかんがえる」「器（うつわ）を知る」などのテーマ別に、パネルの展示や正しい知識の普及を行い、訪れた市民にかしこい消費者になろうと呼びかけました。写真は、展示の説明を受ける大橋和夫市長（中央）と全婦連委員長石井はなさん（手前）

スポーツで健康ふなばし こんにちは…

岡本太郎さん（右）と大橋和夫市長



船橋市が平和都市宣言の記念シンボルとして計画している「平和の像」の原形が完成し、設置予定のワンパク王国で2月19日に披露されました。千葉県に初めて作品をつくるという岡本太郎さんは、「世界に向かって心を開く姿を表現した」と独特のポーズで説明されました。完成すると高さは17メートルにもなります。



編集だより

朝夕必死で練習に励む子供たちのひたむきな姿には胸を打たれるものがあった。ちょっとしたニュアンスの違いも、くり返しくり返しの練習できちんと出来るようになってゆく。正に指導者と子供たちとの根くらべが延々と展開されるのである。小栗原小舎奏クラブのほとんどの子供たちは入部してきて初めて楽器を手にするのだという。子供の無限の可能性というものがあるが今更ながら驚異に感じられてならない。

定期演奏会での6年生の涙は、様々な思い出や、一つのことを成しとげた満足感、感謝の気持ちなどが複雑に交錯してのものかと思う。しかし、その演奏は今までの中でも最高に近い出来だったそうだ。技をひたすら研ぎ続けた毎日の苦しい練習。おそらく子供たちは、最後のこの演奏で、初めて自らの成長と、音楽に一番大切な「心」の部分を感じたのではないだろうか。今日もまた練習が続けられている。